

福岡県プレイリーダー研修会

本研修会は、こどもが意欲的になる体験活動の指導について理解するとともに、安全管理に関する知識を身に付けた体験活動指導者の育成を図ることを目的に開催しました。

当日は、管内の体験活動指導者等25名が参加し、他の参加者とともに体験しながら学びを深めました。

本研修会は、研修会の目的を達成するために、①「趣旨説明」→②「講師の講話・演習」→③「体験活動に関する講義」という順で進めました。

<説明> 「本研修の趣旨について」

筑豊教育事務所 社会教育室 社会教育主事 後藤 大輝

福岡県プレイリーダーや本研修のねらい、研修の内容、学びの視点を説明した後、参加者の緊張感をほぐすためにジャンケンアレンジしたアイスブレイクを行いました。

<講話・演習> 「やってみよう！科学実験・工作～指導のポイントと安全管理～」

福岡県青少年科学館

田中 ふみ氏 日高 裕策氏

まず、田中氏によるサイエンスショーの実演と、科学原理の説明がありました。また、こどもの興味を引き付けるための、問いかけや見せ方の工夫について話もありました。実演の後、参加者が実際に実験道具に触りながら、仕組みや見せ方等について確認をしました。

次に、日高氏による科学工作の演習があり、実際に工作をしたり、作ったもので遊んでみたりしながら、こども目線で活動を楽しみました。また、グループで1つリング飛行機をつくる中で、試行錯誤の大切さや協同する楽しさが実感できました。

最後に、参加者が活動中に見つけた指導のポイントや安全管理について、グループで意見交流を行いました。その後、日高氏から、活動の中に「自分なりの工夫ができる余地をつくる」ことや、道具の渡し方・場づくり・指導者の立ち位置等による安全管理のあり方について説明をしていただきました。

コミュニケーションをとりながら活動を進める中で、参加者同士の仲も深まっていきました。



<講義> 「体験活動の意義と安全管理」

筑豊教育事務所 社会教育室 社会教育主事 後藤 大輝

こどもの体験活動の現状や、体験活動の必要性について説明した後、科学実験・工作を振り返りながら、こどもの意欲を引き出す指導のポイントや、安全管理のあり方について確認しました。途中、意見交流もはさみながら、研修内容の理解を深められるようにしました。大切なこととして、体験活動の目的を明確にし、指導者間で共通理解することや、目的に合わせた適切な安全管理を行う必要があることを確認しました。

参加者は本研修会を通じて、こどもが意欲的になる体験活動の指導のポイントや安全管理について学びを深めることができました。また、参加者同士の交流により、横のつながりを深めることができました。

【参加者アンケートから】（抜粋）

- ・「実際に体験して自分なりの指導のポイントや安全管理について学ぶことができました。」
- ・「目的をしっかりと共有し、その時間を有意義なものにするために、指導者の役割は大きいと感じました。」
- ・「子どもたちと実験の仕組みなどを一緒に考えながら楽しみたい。」
- ・「今回学んだ『やってみよう』を引き出してたくさんコミュニケーションを取りたい。」